ぼちぼち

NPO 富士北麓まちづくりネットワーク会報

《 第 69 号 》
発　行：ＮＰＯ富士北麓まちづくりネットワーク
発行日：２０２１年１月１日
責任者：代表理事 飯 田 勇 夫
住　所：〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田東3-1-77
制　作：広報渉外部会
事務局電話＆FAX：0555-23-0202
http://www.mfi.or.jp/machizukuri/index.html

「目標に向かって進む気持ちをうし（牛）なわず努めて行きましょう」

代表理事 飯 田 勇 夫

明けまして
おめでとうございます。
令和３年、素晴らしい新年を
お健やかにお迎えのことと
お慶び申し上げます。

２０２１年丑年は、いったいどんな年になるのでしょうか？

新型コロナウイルスの蔓延で、まだまだ耐え忍ぶ年になるかも知れませんが、地道に突き進む牛のごとく新たな発展へと繋げていきたいですね。

ところで、丑の文字は「紐」という漢字の旁（つくり）「丑」が使われていますが人と人を結ぶ意味も含まれ「神の使い」と考えられているそうです。

インドの牛は「神の使者」と言われ、学問の神様菅原道真（すがわらみちざね）を祀る太宰府天満宮には牛の像が置かれていますが、これは天満宮の御神牛（神の使いとされる動物）で全国の天満宮に祀られているそうです。

富士の映える「背戸山展望台」より
（令和２年12月13日撮影）

太宰府天満宮の御神牛

コロナ影響下での活動について

２０２０年は、ＮＰＯが計画した自主事業計画もほとんど実施ができませんでした。

新聞紙上ではあまり報道されていませんが、日本の子どもの７人に１人が貧困家庭で生活していることが厚生労働省の調査によって分かっています。

そのうちの多くはひとり親家庭と言われていますが、貧困が深刻化している理由には複合的な要因があり、なかでもコロナ禍で雇用が不安定となり収入減や休業に追いやられた家庭が増加していることがあげられます。

２０１６年に発表された世界の貧困率比較では、日本は１４番目に位置し１５・７％、先進国の中では中国・アメリカに次いで３番目というから驚き！

ＮＰＯ法人や地域の団体で構成された「子ども食堂」や「１００円食堂」といった活動も現在、新型コロナウイルスの影響でやむなく中止されているのが現状です。

このような状況下だからこそ、視点を変えれば我々の活動は我々にしかできない活動ではなのでしょうか？　当ＮＰＯは「青少年センター赤い屋根」を指定管理運営している関係上、厨房、食堂が完備され、

ポチたまの部屋

最近、新聞で「ＭＭＴ」という文字を見る。モダン・マネタリー・セオリーの略で、日本語でいうと「現代貨幣理論」。現代用語辞典によると「政府が自国通貨建ての借金（国債）をいくら増やしても財政は破綻せず、インフレもコントロールできる理論」とある。「日本は国債をもっと発行しても経済は破綻しません」という水戸黄門の印籠のような理屈である。しかし「流通する貨幣が生産以上に増えればインフレが起きる」というのは昔から経済学の常識ではないのか。ある朝、起きたら酷いインフレになっていた、とならないか心配…（Ａ）

スタッフも層が厚く「食生活改善推進委員」「食品衛生管理者」が控え、コロナ関係では「山梨グリーンゾーン認証」を受けております。

更には、シングルマザーはもちろん子供たちの交流の場として施設を提供でき、お茶や習字も指導できるスタッフ、ちょっとした音楽会も開催できる体制にあります。

問題は、「子ども食堂が開催されている場所は貧困の集まり」といったイメージがあり開催自体を地域や家庭で反対したり、親が子供を行かせないケースもあり、このような事例から「貧困を集める」という目的ではなく「地域を活性化する」という目的に置きかえ、活動をしていく必要があります。一方では貧困や孤食を防ぐことに始まった子ども食堂がホントにそれを必要としている子供たちにいきわたっているか？　見極めていくことも必要となります。

いずれにせよ理事会にて方向性を定め、市をはじめ社会福祉協議会・地域自治会とも相談させていただきながら、今だからこそ我々にしかできない活動の一つに加えていければと思っています。

「牛の歩みも千里」・・・遅い牛の足どりでもたゆまず行けば必ず目的達成ができる。

そんな牛にあやかった一年になればと願っています。（以上）

コロナ菌対ケイザイ金

会員　隅野　一駒

約１年前、東京湾にクルーズ船がコロナ菌を運んできて大騒ぎになりました。当時は、物珍しさも有り、それほど恐ろしく感じていませんでした。

第一波という波が来て、時の政府は慌てました。人々にお金を配ろう、マスクも上げちゃおう、学校も一斉休校にしよう……国民の傷を隠すような政策を並べました。しかし、感染症対策の効力は効かず第二波が襲ってきました。緊急医療体制を敷き、感染者数は急激に減りました。世の中、どなた様のお陰か解らぬまま９月になりました。突然、安倍総理が、「体調の異変」を理由に総理退陣を発表して、自民党は総裁選挙になりました。

その結果、無派閥の菅さんが内閣総理大臣になってしまいました。派閥政治の自民党は、どうなったのでしょうか。二階の爺さん（二階は間違いではありません）が後ろで画策した通りになりました。

この原稿は、自民党の内輪話がメインテーマではありません。日本国の借金の事が心配です。誰か将来に向けた目の覚めるような解決方法を教えて下さい。

今現在、知らぬ間に国民一人が９５０万円借金をしている事になるらしいです。９５０万円×１億２０００万人＝約１１００兆円？？？？　解りますか。１１００兆円ですよ。

我が国の１年間の一般会計予算が１００兆円を超えたのは、令和元年からだったと思います。１１００兆円は国の予算の１１倍の借金です。

それにこの大借金を作るのに長～い長～い月日はかかっていないのです。確か数年前に借金が５００兆円を超えたと大騒ぎしたと思います。

今、安倍さんの８年間の実績は調べませんが、どうだったんでしょうか？　２０２０年２０２１年はコロナの来襲で、ますます借金は膨らむのでしょうね。

ＭＭＴ理論という、借金を怖がらない理論があるらしいですが、今、鬼にも縋りたい気持ちです。

ちょっと一休み

“おばあちゃん、お名前はなんですか？”
「とめ」
“誕生日はいつですか？”
「元旦」
“お年はいくつですか？”
「毎年変わるんでわからん」
“・・・・・”　　（笑雲）

ふれあい川柳会

課題　自由吟

立ったまま靴下履けるとプチ自慢　渡辺武人
自国ではないがやきもきした選挙　川崎ふみこ
信用が有った上での有難う　堀内孝春
日の丸は悪くないのに遠慮がち　梶原　妙
夜はバー昼はラーメン二毛作　渡辺てるみ
案の定出てきた証は推測通り　小俣まゆみ
おかしいぞ妻が無口だ何かある　小池美左
ごーつーに行けない人と行ける人　土屋花蓮
四年経ち金では買えぬ民主主義　相川あくと
旅先でマスクマスクと寝言いう　渡辺一九

事務局だより

NPO事務局長　渡邊義広

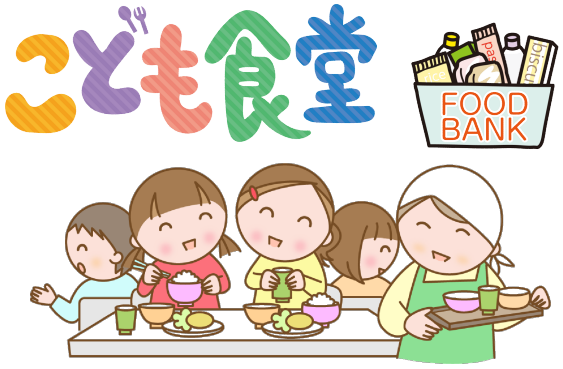
令和２年は、新型コロナウイルスに始まり新型コロナウイルスで終わった。４月７日新型コロナウイルス対策緊急事態が宣言され、外出の自粛をはじめ、学校休校など感染の防止に必要な協力が要請された。国民生活や経済活動はストップし、不要不急の外出は自粛されて社会機能はほぼ停止した。

本ＮＰＯが指定管理で管理運営を任された市民ふれあいセンター、青少年センターも受託して以来、初めて利用者の受入れをストップして業務を停止することになった。

新型コロナ感染防止対策として、不要不急の外出、東京アラート、県境移動自粛、ソーシャルディスタンス、マスク着用、３密回避、テレワーク、ウイズコロナなどなど今までの生活の中では、お目にかかることがなかった言葉による「新しい生活様式」の徹底が叫ばれて、私たちの生活スタイルを一変させる新時代が到来した。

また、本ＮＰＯも年間事業はほとんど中止を余儀なくされ、一時閉館により利用者は激減し収支の源泉が途絶えた結果、本ＮＰＯも緊急事態となり「火の車」となった。

しかしながら、会員各位の厚いご尽力を得て、国の緊急支援による給付金や助成金の交付、市の収入減の補てんを受けることが出来た。さらに、利用者の感染防止のための山梨県「グリーン・ゾーン認証」を取得したりと、この百年に一度の災厄を乗り越える対応力を発揮していただき、何とか新年を迎えることが出来た。会員各位に感謝である。



さて、このような緊急事態の中、通常ではやる気を喪失し、意気消沈して「嵐が通り過ぎるのを待つ」となるはずだが、その停滞ムードを突き破る発想が代表理事の口から打ち出されたのである。それは「赤い屋根こども食堂＆フードバンク」プランである。

その発想の原点は、どうも防災非常食「アルファ米」にあるようだ。地域の二次避難場所となっている青少年センターに備蓄されている「アルファ米」の賞味期限の近いことが気になっていた。そこで、フードロスを避けたいとその活用について考えていたが、そこから発展的に「子ども食堂＆フードバンク」プランに凝縮したらしい。

山梨県の「子ども食堂等実態調査」（令和２年７月）によると、県内に子ども食堂は３０カ所あり、現在コロナのためその活動を停止している。再開見通しについては、感染者数や感染症対策を検討しつつ、タイミングを探っている状況である。

このような中で、「グリーン・ゾーン認証」を受けた「赤い屋根こども食堂」を開くことの意義はとても大きく、コロナ対策としても理にかなっているプランである。

目のつけ所が秀逸であり、「赤い屋根」でしか出来ないと言っても過言ではない。

また、食事提供以外の調理体験、学習支援、遊び場の提供、育児相談などは、本ＮＰＯのスタッフと会員が最も得意とする分野でもある。「子ども食堂＆フードバンク」プランは新しい年に向けての明るい「希望の光」になるような予感がする。

結びに一言。「用もないのに行く、顔を出しておきたくなる場所がコミュニティだと僕は思うんです。津田大介」（朝日新聞「折々のことば」鷲田清一）　（完）

会報「ぼちぼち」は、インターネットホームページでもご覧いただけます。
URLは、http://www.mfi.or.jp/machizukuri/index.html です。
また、会報に掲載する記事は、随時受けております。
普段の生活の中で考えている事や身近な出来事、是非皆で共有しましょう！
広報渉外部会メールアドレスは、mkin1962@yahoo.co.jp まで、お待ちしております!!

富士吉田市立青少年センター

赤い屋根だより

No.42

電話＆FAX：0555-23-7252
E-メール：akaiyane@mfi.or.jp
ホームページ：http://www.mfi.or.jp /akaiyane/
青少年センター赤い屋根　センター長　齋藤容子

８月末にやまなしグリーンゾーンの認証を受け、万全の感染予防対策にて運営を続けているところですが、県外の利用者は少しずつですが回復しているものの、まだ以前の宿泊数には届いていないのが現状です。今後に期待したいです。

≪自主事業≫

10 月 18 日　ガールスカウト山梨の皆様より「フジザクラの苗木」の寄贈がありました。20 本の苗木を頂き、皆で植樹しました。赤い屋根が富士桜の名所になるかもしれません。

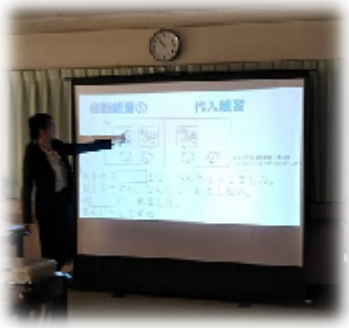
10 月 25 日　中央社会学級「立礼茶道」の最終回が三密を避け、茶会形式で行われました。

10 月 25 日　「赤い屋根ほのぼのコンサート」
ヴァイオリンの牛山孝介氏の演奏
美しいヴァイオリンの音色に皆がうっとりのひと時でした。

11 月 17 日　「日本語ボランティア講座」
諏訪辺みのり氏による日本語による日本語の教え方の初級講座を教わりました。目からうろこの内容で充実の時間でした。

12 月　2 日　火災を想定した避難訓練がおこなわれました。非常食を使った新しい料理も作りました。

12 月 12 日　「かんたん粘土の干支飾り」堀田享子さん指導による恒例の講座が行われました。



◎青少年センター　赤い屋根において防災訓練が実施されました！

12 月 2 日、青少年センターにおいて消火、通報、避難、ＡＥＤ操作活用の訓練が行われました。

防火管理者加藤氏の訓練計画に基づき、スタッフ 22 名の参加の中で、センターと利用者の命と安全確保のための訓練、ＡＥＤについては、綜合警備保障　ＡＬＳＯＫの滝口様に操作やダミーを用いての使用方法を学び、参加者が実際に心臓マッサージ、気管確保等の実施訓練を行いました。

参加者は「備えあれば憂いなし」、”やってみなくては分からないことだらけ”とそれぞれ真剣に取り組んでいました。

ダミーを使用してのAED操作と活用方法

市民ふれあいセンターだより

電話番号　0555-22―1785
ふれあいセンター長　佐藤雄三

新年あけましておめでとうございます。

今年もスタッフ一同こころを一つにして、利用者の皆さんに明るい対応を心がけて頑張っていきます。本年もよろしくお願い致します。

昨年２月からのコロナの影響が、今年もいつまで続くのか予測がつきませんが、感染防止のために継続して、マスク着用、利用人数の制限、換気、消毒清掃等の徹底につとめコロナを出さないよう、心がけていきます。利用者の皆さんにも、状況によって対応（自粛等）を、よろしくお願い致します。

なお、有料の利用者の皆様には、条例の遵守ということで、申し込み時に入金をお願いしております。ご理解いただき、これからも引き続きご協力お願い申し上げます。